

平成22年度森林総合研究所四国支所研究評議会報告

外部の有識者から四国支所の研究活動や業務運営に関して意見をいただき、今後の活動に反映させていくために開催しているものです。

日時：平成23年 3月 3日（木） 13:00～16:00

場所：森林総合研究所四国支所 会議室

1. 評議会委員及びオブザーバー（敬称略：50音順）

評議会委員

大西 庸子

木庸社代表

櫻井 克年

国立大学法人高知大学理事

オブザーバー

河野 潤一

四国森林管理局計画部 指導普及課 課長補佐

松岡 良昭

高知県立森林技術センター 所長

2. 議事次第

- 1) 開会挨拶
- 2) 出席者紹介
- 3) 平成22年度研究活動等の概要説明
- 4) 研究の実施状況と成果
- 5) 業務運営及び地域ニーズに関する意見交換
- 6) 講評
- 7) まとめ
- 8) 閉会挨拶

3. 委員及びオブザーバーの意見・指摘事項と対応方針

項目	意見・指摘事項等	対応方針等
研究推進について	・人工林はまさに岐路に立っている。このことは経営者や林業関係者だけではなく、森林の公益的機能という観点からも市民全体で考えていかなければならないことだと思う。四国支所には日本の森林を今後どうしていくべきかの壮大なテーマにアプローチしていただき、展望も語っていただきたい。 また、地域に密着した研究機関として、地域で多くの課題を抱えている小規模な林家の存在も考えた研究を推進していただきたい。	・日本における森林のあり方についてはとても大きな課題であり、様々な形で議論しながら検討していく必要があると考えている。小規模林家については、地域における研究機関として常に考慮しながら取り組んでいるところであり、今後もその姿勢で取り組んでいきたい。
	・日本は全国殆どの山に森林が存在する世界でも類を見ない植林国である。また、これらの人工林をどのように維持・管理すれば良いのかを实践できるのは世界的みても日本だけだと思う。今後この人工林をどう有効に使っていくかについて、生物多様性や炭素固定能等の面から、もっとアピールしていただきたい。さらに、良い人工林とは何かといったことを共通のテーマとして、ここ高知でモデルを作り示していただければと思う。	・平成23年度からは森林総合研究所交付金プロジェクトとして「急傾斜地帯における低撓乱型人工林管理技術の開発」を四国支所提案課題として開始する。本研究課題を通して、人工林の管理技術について研究を推進していきたいと考えている。
	・四国地域は急峻地形が多いが、そこに道を付けて山づくりをしていこうと考えている。そのためにはどのような目標を持って山づくりをしていけば良いか、またどのような方向に持って行けば、経営が成り立つようになるかを検討していただきたい。道づくりは経営が成り立つ可能性を高める要素の一つではあると思っている。	・森林所有者の林業経営に対して有益な情報を提供していくことは研究所の役割と考えている。来年度から開始する交付金プロジェクトでは、施業シミュレーションをしながら立地条件に応じた施業方法を提示できるような技術開発を創出することを目標のひとつとしている。目標の達成に向けて研究を推進したい。
	・シカによる食害はますます増加傾向にあるが、国有林のフィールド等を活用して、シカの捕殺等を通じた対策が必要ではないか。また四国全体で連携してシカ食害対策に取り組んでいく必要があるのではないかな。	・シカの密度コントロールに関する研究は九州支所を中心として実施しているところであるが、四国地域でもシカの食害は深刻な状況であり対応していく必要があると考えている。四国支所としては行

	政等による対策会議等において、これまでの研究調査結果等を踏まえ、密度管理、食害対策、各県の連携による体制作りの推進の必要性について訴えているところである。 捕殺技術については薄暮時における実行、高い位置からのハンティングという手法もあるが現実的には困難な面もある。
地域連携について	・産学官連携推進の取り組みとして実施された「森林技術連携フォーラム」は次年度以降も開催するのか。 ・前年度の四国地区林業開発会議（H21.5開催）で立ち上げた「四国地域森林・林業支援研究会」の活動はどうなっているか。次期交プロの課題ともリンクさせた形で、研究会活動を活発化させたらどうか。
その他	・ご意見を参考に、今後前向きに検討してまいりたい。 ・同研究会の活動としては前年度から開始された実用技術開発事業「スギ再造林の低コスト化を目的とした育林コスト予測手法及び適地診断システムの開発」に関連して国、県、独法および民間企業が集い、徳島県三好市において勉強会を開催したが、その後の活動は活発化していないのが現状である。今後はご提案のあった取り組み等を実施していきたい。
その意	・フォレスター育成に関する情報を持っていれば教えていただきたい。 ・林野庁からの情報によれば、全国地域ごとに准フォレスター育成のための研修を平成23年度から事業として実施する予定であると聞いている。その研修については森林管理局も加わって実施されるようであり、森林管理局においてはフォレスター育成に対応した新しいポストも設置されるように聞いている。
見	・有用広葉樹の育成と針葉樹の混交林（樹齢100年程度）をつくるにはどうしたらよいか。 ・難しい課題であるが、スギ・ヒノキを粗放に植栽して、そこに広葉樹を植えるという手法もあると考えられる。 なお、針葉樹人工林を伐ればその後、何でも生えるといった考えでは非常に厳しいと思われる。 *上記の2つについては対応方針ではなく、議事次第5）業務運営及び地域ニーズに関する情報交換において出された質問へのコメントとして掲載した。